

ヒグマ対応 初動がカギ、追い払い重視の抑止策を

3月8日予算特別委員(環境)で千葉市議

昨年発生した市内東区に出没したヒグマによる人身被害から、市は22年度、進入抑制費を前年比3700万円増の5200万円を計上し、東区の草刈りや自動撮影カメラを設置します。当該のヒグマは茨戸緑地に3週間とどまっていました。

千葉市議は、21年秋の決算委員会で、市が初期段階で追い払いには至らなかったと答弁していることも振り返りつつ、早い段階での対策について検討されたのかどうかと質問しました。担当部長は、「札幌市と接している当別町、石狩市などと出没情報の共有について手法や体制を具体的に協議している」と答弁しました。

市街地に出没するヒグマは、農作物や放棄された果実を目当てに出没を繰り返し、こうしたヒグマが複数確認されています。市は、「詳細な情報収集を行った上で、農作物を食害したり、一次被害を引き起こした個体の他、人前に繰り返し出没し、人を見ても逃げない個体」を「問題個体」と定義。捕獲は、有害性を判断し専門家の意見を聞いて個々に判断していると説明しました。

千葉市議は、こうした問題個体について、「山林に接する場所に現れたそのような個体に対しては、市街地に出てこないように、まずは追い払いをすべき」と質問、担当部長は、「ヒグマが山林近くに元に出没している状況で、その個体の有害性が低い場合にはできる限り追い払いをもって対応」としつつも、山林と住宅地が近接した場所では、安全確保から専門家の意見も聞き総合的に判断するとしています。

千葉市議は、積極的に追い払いを位置付ける必要があることや、ヒグマは学習能力が高く畏にかかると動かなくなること、母クマが捕獲されると子グマが母グマから何も教えられずに市街地に出てくる傾向が強いことなども専門家の研究として報告されていると紹介し、追い払いを位置付けるよう要請しました。

定山溪振興 市民利用と空き店舗支援など魅力度アップで

3月14日予算特別委員(経済観光)で小形市議

22年度予算に、定山溪魅力アップ費2億円の予算が盛り込まれました。

小形市議は、「地元の市民が何度でも行きたくなるような場所」、「そこで楽しんでいるという姿が、道外や海外の人たちの魅力を一層寄せて、行ってみたいと思うところになる」と魅力度アップに繋がると指摘。21年度に実施された、定山溪への誘客、地域での消費拡大を推進、日帰り観光客を対象にした割引チケット販売は、短期間で売り切れるほど好評となったことをあげ、「22年度はどのようにして定山溪地区の誘客を促進しようとお考えなのか」と質問しました。

担当部長は、「来年度も同様に、チケット販売事業に対する支援を行う」「予算を増額して実施するほか、割引率や発行枚数の設定などは定山溪観光協会と協議していく」と答弁。小形市議は、「いわゆる満足度を高めていくということが大事」「目立ってきた空き店舗を活用した新規出店への補助について効果」との質問にも、「温泉街としての景観を保ち、にぎわい創出に繋がる新規出店に対する支援を実施したい」と説明しました。

市は、地元の食材を生かした飲食店や文化や自然などを楽しむことができる拠点など、定山溪ならではの食や特別な体験が提供されることを期待していると構想を説明。小形市議は、「魅力アップには、やはり地域密着型の観光地として振興が図られる」必要があると一層の努力を求めました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。